

## 在宅看護学演習

[演習] 1年 後期 選択 30時間 2単位

《担当者名》○竹生礼子 [ take-r@hoku-i-ryo-u.ac.jp ]  
 川添恵理子 [ e-kawa@hoku-i-ryo-u.ac.jp ]  
 塚本容子 [ yokot88@hoku-i-ryo-u.ac.jp ]  
 明野伸次 [ akeno@hoku-i-ryo-u.ac.jp ]  
 高橋伸彦( 齒 ) [ ntkhs@hoku-i-ryo-u.ac.jp ]

## 【概要】

医療的ケアが必要な在宅療養者に対して、医療機関の包括的支援を通して、検査、医療処置、対症療法、薬物療法等について、アセスメントを実施し、エビデンスに基づいた医療提供の実践について学ぶ。医師が行う診断・治療の過程における検査・処置・対象療法・薬物調整について学び、キュアとケアを統合した看護実践ができるようにする。

## 【学修目標】

- 1) 在宅看護の実践の場面で遭遇する、医療的ケアが必要となる疾患のうち、循環器系疾患、呼吸器系疾患、神経系疾患、脳血管疾患、内分泌疾患、代謝性疾患に関する医師の診断・治療のプロセスが理解できる。
- 2) 暮らしの場において医療的ケアが必要な療養者について、医師の包括的支援のもとに、療養者の病状の医学的アセスメント、必要な検査と結果の判断、必要な医療処置・薬物療法の判断と効果の査定を行うことができる。
- 3) 療養者の症状のアセスメント、医師の包括的指示内の医療処置・薬物調整の基本を身につける。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	在宅医療の現状と在宅における医療処置と看護師の役割	在宅における医療処置の現状と看護師の役割 医療的ケアが必要な在宅療養者 教員による講義	竹生 川添
2	循環器系疾患(1)	循環器系疾患の病態と検査、診断 高血圧、心不全、狭心症、不整脈など 医師による講義	竹生 山本匡 (特別講師)
3	循環器系疾患(2)	循環器系疾患の治療 医療処置、対症療法、薬物療法の方法と効果の査定 学生が在宅看護の実践事例の病態・治療・ケア方法についてプレゼンテーションし、学生・講師・教員間でディスカッションする。	竹生 山本匡 (特別講師)
4	呼吸器系疾患(1)	呼吸器系疾患の病態と検査、診断 慢性閉塞性肺疾患、肺炎、喘息など 医師による講義	川添 小西徹夫 (特別講師)
5	呼吸器系疾患(2)	呼吸器系疾患の治療 医療処置、対症療法、薬物療法の方法と効果の査定 学生が在宅看護の実践事例の病態・治療・ケア方法についてプレゼンテーションし、学生・講師・教員間でディスカッションする。	川添 小西徹夫 (特別講師)
6	神経系疾患・脳血管疾患(1)	神経系疾患・脳血管系疾患の病態と検査、診断 脳梗塞・脳出血、パーキンソン病、ALS、認知症など 医師による講義	竹生 小西徹夫 (特別講師)
7	神経系疾患・脳血管疾患(2)	神経系疾患・脳血管系疾患の治療 医療処置、対症療法、薬物療法の方法と効果の査定 学生が在宅看護の実践事例の病態・治療・ケア方法についてプレゼンテーションし、学生・講師・教員間でディスカッションする。	竹生 小西徹夫 (特別講師)
8	内分泌疾患・代謝性疾患(1)	内分泌疾患・代謝性疾患の病態と検査、診断 糖尿病、甲状腺機能低下症 など 医師による講義	川添 高橋

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	内分泌疾患・代謝性疾患(2)	内分泌疾患・代謝性疾患の治療 医療処置、対症療法、薬物療法の方法と効果の査定 学生が在宅看護の実践事例の病態・治療・ケア方法についてプレゼンテーションし、学生・講師・教員間でディスカッションする。	川添 高橋
10	感染症(1)	在宅で遭遇する感染症と病態、検査、診断  NPによる講義	竹生 塚本
11	感染症(2)	感染の予防、安全管理の方法 感染症発生時の対応方法 NPによる講義	竹生 塚本
12	在宅における医療処置(1)	在宅における創傷および皮膚のケアの具体的方法 創傷、褥瘡、ろう孔のケアなど NPによる講義と演習指導	川添 塚本
13	在宅における医療処置(2)	在宅における呼吸管理・栄養管理の具体的方法 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、気管チューブ 中心静脈栄養法、経管栄養法（経鼻、胃瘻）などの 管理など NPによる講義と演習指導	川添 塚本
14	在宅における医療処置(3)	在宅における医療機器を駆使した看護判断の具体的方法 講師による講義と演習指導	竹生 川添 明野（伸） 山口睦弘 （特別講師）
15	まとめ	在宅医療における看護師が行う医療的ケアについて キュアとケアを統合した看護について考察を深める 演習および文献を踏まえた討議	竹生 川添 明野（伸） 山口睦弘 （特別講師）

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

授業への準備状況（30%）、発表（30%）・課題レポート（10%）、討議への参加（30%）

## 【教科書】

指定なし。適宜資料を配布する。

## 【参考書】

Leslie Neal-Boylan: Clinical Case Studies in Home Health Care. WILEY-BACKWELL. 2011.

荒川 祐貴, 井上 智子: 看護ケア発展に向けたキュアとケアを統合した看護実践の内的構造の分析. 日本看護科学会誌. 35. 72-81. 2015.

川越正平編: 在宅医療バイブル. 日本医事新報社. 2014

長江弘子: 生活と医療を統合する継続看護マネジメント. 医歯薬出版. 2014.

## 【学修の準備】

各テーマに沿って事前に自身の実践事例についてまとめておくこと。

## 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポ

リシーに適合している。